



日本SPIコンソーシアム(JASPIC) 活動方針／活動計画

2018年度制定版

2019年12月1日

- ※ SPI : Software Process Improvement ソフトウェアプロセス改善
- ※ JASPIC : ジャスピック Japan SPI Consortium の略称

目次

1. 本ドキュメントの目的
2. SPIの価値
3. JASPIC設立の趣旨
4. JASPIC活動方針
5. JASPICの方向性(10年計画)
6. 達成したいゴール
7. ゴール達成に向けたステップ

1. 本ドキュメントの目的

■目的

- 本ドキュメントは、JASPICの将来の構想をまとめたものである。
- 将来のイメージとして、2年後(2020年)、5年後(2023年)、10年後(2028年)の姿を想定して、その時点までに達成したいゴールを示している。

2. SPIの価値

■ピープル：

- SPIは、人々を積極的に巻き込み、日々の活動に影響を与えるものでなければならない。
 - 誇示したり、マネジメントだけに焦点を当てたりするものではない。

■ビジネス：

- SPIは、ビジネスを成功させるために行うものである。
 - 単に標準を展開したり、成熟度レベルを達成したり、認証取得したりするためのものではない。

■チェンジ：

- SPIは、本質的に、変化につなげるものである。
 - 今日と同じことを続けることではない。

3. JASPIC設立の趣旨



- 現代社会で利用される様々な社会システム、産業システムや各種の工業製品などにおいて、**その中核を担っているのがソフトウェアであることは言を待ちません。**
- このような時代に、**利用者のニーズを的確に捉えた高品質・高付加価値のソフトウェアを低コストでタイムリーに開発し提供することは、現代のソフトウェア開発組織に与えられた最優先の課題であります。**
- そして、優れたソフトウェアを開発・保守していくためには、**個々の技術者の能力や資質だけに頼るのではなく、高品質・高生産性を達成できる工学的に安定したソフトウェアプロセスを確立する必要があります。**このためには、自組織のソフトウェアプロセスの長短所を客観的に評価・認識し、現場に密着した地道な改善活動に常に励む必要があります。
- JASPICは、このような地道な改善活動に日夜励んでいる技術者が、**社会組織の壁を超えてプロセス改善に関して各自の経験や技術を交流し合うための場**を提供し、ソフトウェアプロセスの改善(以下SPIと言います)およびSPIに伴うプロセス評価(以下SPAと言います)に関する研究、技術移転、普及活動、国際交流などを行う事を目的に2000年に設立された非営利団体です。

※ SPI : Software Process Improvement、 SPA : Software Process Assessment

出典：日本SPIコンソーシアム(JASPIC)設立趣意書、2002年4月25日

<http://www.jaspic.org/basicDocuments/SPIshui.pdf>

4. JASPIC活動方針

1～4の活動の成果が
JASPICの「価値」です



JASPICは、様々な社会システム、産業システムや各種の工業製品などの開発の中核をなすソフトウェアプロセスをはじめとするプロセスの改善(以下SPIと言います)およびSPIに伴うプロセス評価(以下SPAと言います)に関して、以下を行なうことを目的とします。

1. SPIおよびSPAに関して会員相互間の技術的・人的交流を図り、会員各自の技術力向上と技術移転の促進を図ります。
2. SPIおよびSPAについて、技術／方法論／モデルの研究を行ないます。
3. 我が国におけるSPIおよびSPAに関する社会的認識と技術水準の向上を図るため、上記の活動の成果を活かして、SPIおよびSPAに関する啓蒙・普及活動を行ないます。
4. SPIおよびSPAにかかわるグローバルスタンダード確立に向けた国際貢献や、世界各国におけるカンファレンス等を通じたプロセス改善の専門家との国際交流を行ないます。

5. JASPICの方向性(10年計画)

1. 知識の体系化：

単発の事例にとどまらず、多様な事例、知見を総合して、知識を実践的に体系化する。(活動方針2と4)

2. 価値の訴求・探求：

プロセス改善の意義、効果を積極的にJASPIC内外に発信する。(活動方針3)

3. 専門職としての確立：

プロセス改善を推進する専門家の役割を明確化し、その必要性に対する理解を得る。(活動方針1と3)

4. 貢献領域の拡大：

ソフトウェア開発だけでなく、移行、運用、保守、さらに情報システムの実現形態や利用形態の拡大に伴う各種サービス(例えばクラウド)など、新たな領域にプロセス改善が適用可能であることを実証していく。(全ての活動方針)

6.達成したいゴール

4項目それぞれの
「活動内容」と
⇒「達成される状態」
を表現



1. 知識の体系化：

個別事例から知識が抽出され、利用されるだけでなく、知識体系として収集され、再利用可能な形に整理され、ニーズに応じて実践される。
⇒事例や知識が拡充され、知識体系を洗練化するサイクルが持続的に回っている。
※価値が引き出されている

2. 価値の訴求・探求：

プロセス改善の重要性およびその価値(意義と効果)を明確にして内外に発信する。
⇒【研究会／分科会／シンポジウム／コミュニティ活動／産学連携活動等を通じて】実践的な技術や手法が普及する。※技術や手法の価値が理解されている

3. 専門職としての確立：

専門職の重要性およびその価値(役割と必要性)を明確にして内外に発信する。
⇒【JASPICによるトレーニングプログラムを通じて】プロセス改善を推進する専門家が育成される。※専門家を育成することの価値が理解されている

4. 貢献領域の拡大：

SPIを新たに適用する対象(プロジェクト属性)、分野(運用・保守・)、領域(ビジネス領域)を設定する。
⇒【体系化された知識の新分野への計画的な適用や、新たな領域における事例を広く収集することを通じて】従来とは異なるプロジェクトや、新たなビジネス領域を開拓している企業で、SPIが適用されている。※価値が提供されている

7.ゴール達成に向けたステップ

	① 2020年(2年後)	② 2023年(5年後)	③ 2028年(10年後)
1. 知識の体系化	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な知識の抽出と再利用の仕組みが構築できている SPI WOK Ver.1リリース 	<ul style="list-style-type: none"> 知識が充実し、SPI WOKが認知され活用されている SPI WOK Ver.2リリース 	<ul style="list-style-type: none"> 知識が体系化され、書籍として出版されている SPI WOK Ver.3 / SPI BOK Ver.1リリース
2. 価値の訴求・探求	<ul style="list-style-type: none"> 価値を訴求する相手と、訴求する価値の内容の理解 価値訴求のための仕組み確立(テンプレート等) JASPIC成果物の公開、宣伝 	<ul style="list-style-type: none"> (価値を示す)資料を公開する、広く認知され、活用されていることを確認する 公開資料の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 効果が定性的・定量的に示されている 効果を示す事例集や報告書のリリース
3. 専門職としての確立	<ul style="list-style-type: none"> 専門職としての役割とスキルが明確になっている 専門職の役割の情報発信 ECQA版トレーニングと資格試験の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職の役割を広く認知させる 多様なトレーニングニーズに対応できるプログラムをJASPICから提供する 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職としてのコミュニティが確立され運営されている 専門職のためのギルド結成
4. 貢献領域の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 適用を拡大する対象(プロセス)・分野・領域が設定されている 拡大適用可能な知識のカテゴリや特徴の識別と紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 新規の対象や分野へ適用されている プロセス視点での先行適用事例の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 新規のビジネス領域へ適用されている 新規ビジネス領域への先行適用事例の紹介

※SPI : Software Process Improvement ソフトウェアプロセス改善

※WOK : Web of Knowledge 知識網(関連リンク集)、※BOK : Body of Knowledge 知識体系

※ECQA : European Certification and Qualification Association EU の技術資格認定団体



<http://www.jaspic.org/>